

農産 F A X 情報 第 7 号

令和 8 年 8 月 1 5 日
ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

○雑草対策

- ・生育期間中にシバムギ等の多年生雑草が散見されました。本年作付け予定のほ場を確認し、耕起前の除草剤茎葉処理を検討しましょう。
- ・グリホサート系除草剤は多年生雑草が 15～40cm 程度まで再生した時期に散布しましょう。その後、10 日程度で耕起します。

表 1 多年生雑草の除草剤例

薬剤名	使用方法・使用時期	10aあたり使用量	使用回数
タッチダウンiQ	耕起3日以上前 (雑草生育期)	通常散布 500～750ml	1
		少水量散布 500～750ml (水量25～50 L)	
ラウンドアップ マックスロード	耕起前・雑草生育期	200～500ml	3

※周辺作物に飛散しないよう注意し、ドリフト低減ノズルを使用しましょう。

2 ばれいしょ

○夏疫病・疫病の防除

- ・発生ほ場は治療効果のある剤、未発生ほ場は予防効果のある剤を使用しましょう。
- ・疫病菌による**塊茎腐敗**は気温 17℃以下で多雨になると感染が助長されます。この場合は**塊茎腐敗に効果のある薬剤**を選択しましょう。

○軟腐病の防除

- ・高温多湿条件で発生が多くなります。また、倒伏等により茎葉が傷つくと発生が助長されるため、気象・茎葉の生育状況に合わせて防除を行いましょう。

○茎葉枯凋処理剤使用の注意点

- ・使用時期は、デシカン乳剤の場合は茎葉黄変始め～収穫 3 日前までです。
- ・散布直後に降雨が予想される場合や、土壌が極端に乾燥している場合は、使用を避けてください。

3 てんさい

○褐斑病防除

- ・町内で発生が確認されています。「防除間隔を10日以下にする」「散布水量を増やす」など対策をしましょう。

○シロイチモジヨトウ・シロオビノメイガの防除

- ・道内では既に発生が確認されております（QRコード参照）。
ほ場観察を行い、発見次第防除を行ってください。

○ヨトウガの防除

- ・8月下旬ごろからヨトウガ第二世代幼虫の発生が予想されるため、
ほ場を注視し防除を行いましょう。



8/5 防除所注意報

4 豆類

○灰色かび病、菌核病の防除

- ・灰色かび病の発生が確認されています。これから菌核病の発生も懸念されるため、継続的な防除に努めましょう。

○アズキノメイガ、マメノメイガについて

- ・子実への被害を軽減するため、ほ場観察を行い発見次第、防除を行ってください。
（表2）

- マメコガネの発生が確認されています。防除については関係機関にご相談ください。

表2 ノメイガ類の防除例（小豆）

薬剤名	系統名	希釈倍率(倍)	使用回数	使用時期	RAC番号
ディアナSC	スピノシン	2,500～5,000	2	前日まで	5
プレバソフアール5	ジアミド	4,000	2	7日前まで	28
モスピランSL液剤	ネコチノイト	2,000	3	14日前まで	4A
スミチオン乳剤	有機リン	1,000	4	21日前まで	1B

◎農薬・枯凋剤のドリフトに注意！

◎適度な休憩と塩分・水分補給で熱中症対策！！

◎農薬を適正に使用し、作業履歴は忘れず記帳！！